

更なる極小切開への挑戦 ~白内障手術最前線~

座長のことば

手術の非侵襲化は白内障手術に限らず、すべての外科手術が目指す一つのテーマです。白内障手術の歴史もまさに切開創を小さくし、かつ術後炎症を軽減する歴史でありました。創口サイズを小さくすることは、創口の創傷治癒を早め、医原性の乱視を軽減することに直結していたのです。しかしながら、ここ最近では、単に術後乱視・炎症の軽減といったものから、次なるステージへと進化していると思われます。すなわち、白内障施術装置、眼内レンズの技術革新によって、切開創の極小化は、手術中の前房の安定性(後嚢破損の回避)、角膜内皮障害の軽減につながるようになりました。

新しい技術革新の効果を十分に発揮するためには、それを可能にするためのテクニック、器具などが必要となります。本セミナーでは、3名のエキスパートをお迎えし、この点でのノウハウ・コツをお伝えいたします。多くの先生方の白内障手術のお役にたてれば幸いです。

座長



Daijiro Kurosaka

黒坂 大次郎先生

岩手医科大学
医学部眼科学講座 教授

演者



Hiroyuki Matsushima

2.4mm切開 白内障手術の テクニックとコツ

松島 博之先生

獨協医科大学病院眼科 准教授

演者



Takuya Shiba

1.8mm切開手術の テクニックとコツ

柴 琢也先生

東京慈恵会医科大学眼科学講座 講師

演者



Teruyuki Miyoshi

初めてヒット商品 作れました!!

三好 輝行先生

三好眼科 院長